

* 帝国陸軍の戦闘機が引っかけた 60m 鉄塔検証

—その6、三鷹時代初期の北からの眺めの写真発見—

アーカイブ室新聞 164号、172号～174号、177、178号に60m鉄塔検証の記事を書いた。この60m鉄塔は昭和18年に調布飛行場を離陸した帝国陸軍の戦闘機がこの60m鉄塔に接触して墜落するという戦時中の機密事件があり、興味深いので調査を続けている。東京天文台100年史に掲載された三鷹時代初期の構内風景(北からの眺め)という写真を見ると、この写真は航空写真というには角度が低い、かなり低空から撮影された写真である。そうであるならば航空写真というより鉄塔の上から撮影されたと考えるのが妥当である。この程度の角度で撮影できる高い建造物は陸軍の手によって倒されたという60m鉄塔と思える。そして北からの眺めである。そうだとすると60m鉄塔のうち東北に位置した官舎35号があった南辺りの鉄塔跡に立っていた60m鉄塔から撮影されたものと考えられる。この写真では撮影地点に向かうほぼ直線上に写っている2個の建物は卯酉儀ドームとブラッシャー写真儀ドームがあり、図面上でその2点を結ぶと図1の④となり、その鉄塔に向かうのである。そして、この写真に移っている主な建物に向かってその60m鉄塔から①、②、③、⑤、⑥の線を引いてみると、写真1に写っている角度とぴったりである。今まで60m鉄塔のうち南端の鉄塔上から撮影されたと思われる写真2枚が発見されているが、これで北東の鉄塔から撮影された写真を発見したことになる。



21 三鷹時代初期の構内風景(北からの眺め)

写真1 60m鉄塔のうち北東の鉄塔から撮影されたと思われる写真

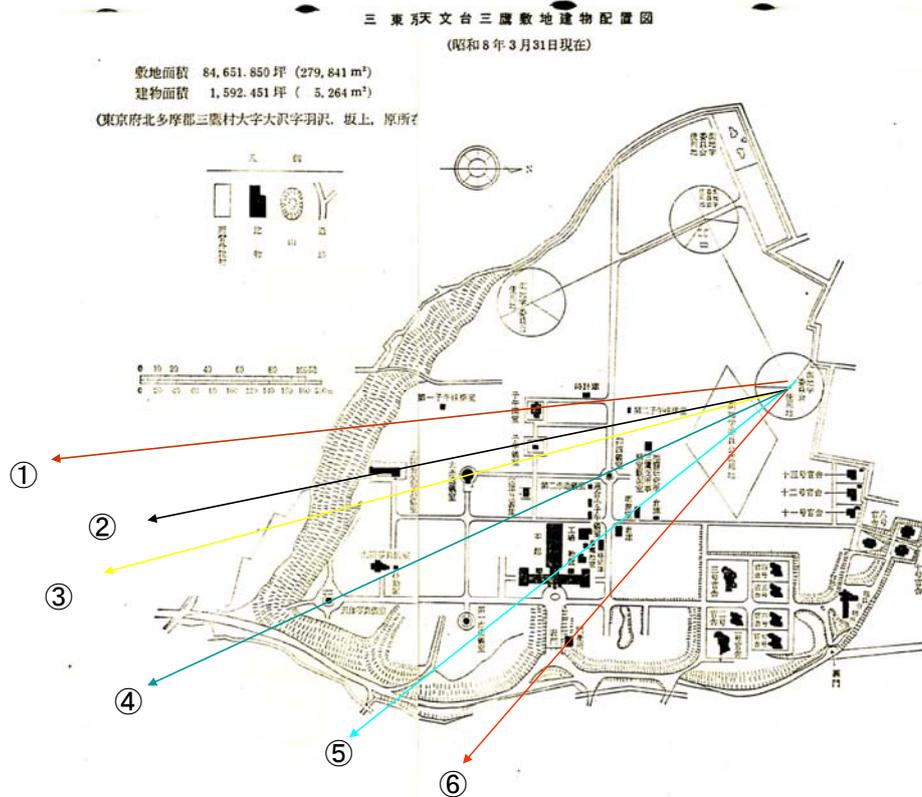
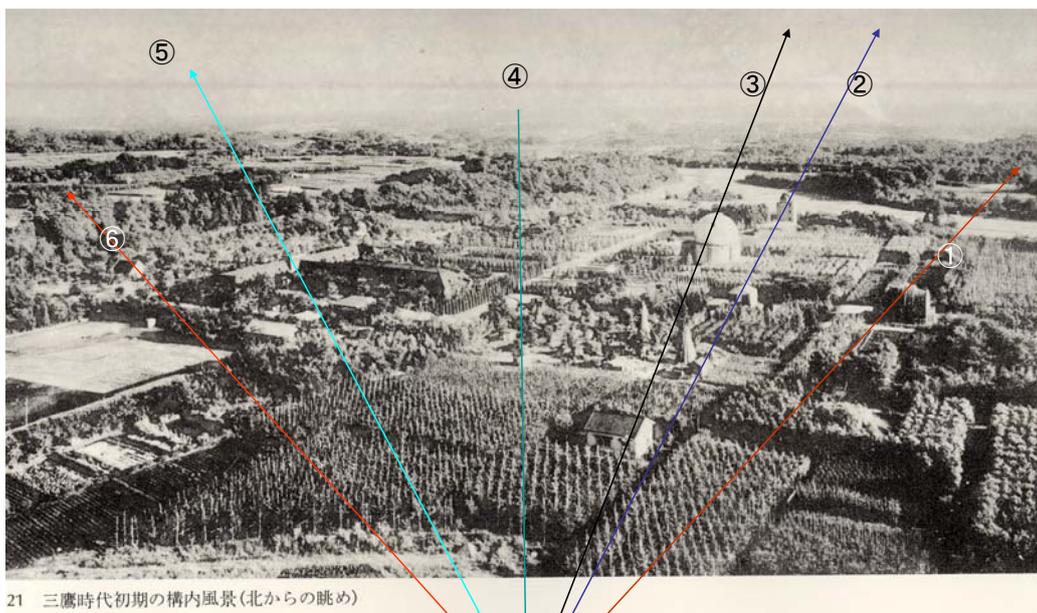


図2 昭和8年の東京天文台の建物は一途に視準線を入れたもの



21 三鷹時代初期の構内風景(北からの眺め)

写真2 図2の視準線を写真に入れたもの

写真2は図2の視準線を写真1に入れたものである。

写真3は、この鉄塔に基礎の中心にあったと思われる構造物である。



写真3 写真1が撮影された鉄塔の基礎

この北東に位置する 60m 鉄塔の痕跡だけは完全に把握されており、鉄塔中心の基礎構造物、3方へのステアのコンクリート基礎が確認できている。それらを示す写真が図2である。



37号官舎北



34号官舎庭



35号官舎南



桜並木北

図2(写真) 中心に60m鉄塔基礎、3方のステアのコンクリート基礎
そして、ついにこれらの鉄塔が写った写真を発見した。次号で紹介する。お楽しみに！